

集計

事業所における自己評価結果

事業所名		八尾市立障害者総合福祉センター（児童発達支援）					公表日	2025年6月2日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	主に重症心身障がい児・医療的ケア児の受け入れをしています。第一に子ども達が安心・安全に過ごせるよう環境を整えています。子どもの状態やスペースにあわせて、適切な人数で利用ができるように調整を行っています。スポーツホールや戸外なども活用し保育を行っています。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	25%	75%	保育士・看護師・作業療法士や理学療法士を配置し、利用定員や子どもの状態等にあわせて職員の配置を行っています。密な支援を目指しているため、もう少し保育士を増やしたいと感じることもあるが、協力し合っています。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	保育室内は整理整頓をし、子どもたちに余分な刺激とならないように配慮しています。遊びや生活にかかわるスケジュールや手順などは、視覚的ツールも使用しながら子ども達にとってわかりやすい環境を心掛けています。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	保育室、玩具等は毎日の清掃、消毒を行い、清潔に保つように努めています。また、保育室以外でも活動にあわせて、スポーツホールや公園などを利用し、十分に活動が楽しめる環境を提供できるようにしています。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	個別での対応が必要な場合は、状況に合わせて保育室以外の場所でも安全に過ごせるようにしています。別室でクールダウンができるようにしたり、個別対応を適切に行っています。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	保育士と共に、看護師、作業療法士や理学療法士等が子どもの状態について共有し、課題に対する取り組みを一緒に考えていけるようにしています。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	頂いた意見は真摯に受け止め、改善するように努めています。保護者の皆様からいただいたアンケートを確認して、職員同士で話し合い、改善につなげるようにしています。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	日々の職員間でのコミュニケーションに加えて、保育計画の立案時や保育の振り返りの際に意見交換ができるように努めています。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	0%				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	75%	25%	研修の情報共有を職員間で行い、積極的な研修への参加を促しています。施設内では、子どもに関する様々なテーマでのワークショップを継続的に開催しています。また、学会での発表等も行っています。外部での研修案内の情報は事務所内で掲示している。法人内のオンライン研修は各自で受講しています。	新人職員研修以外も充実させたいと考えています。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	総合的な支援の推進と、事業所が提供する支援の見える化を図るため、5領域（「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」）との関連性を明確にした、事業所における支援の実施に関する計画「支援プログラム」を作成し、ホームページにも公表しています。子ども達に合わせた内容としています。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%	多職種それぞれの視点から、分析し、計画を立てています。職員間でよく話し合い、定期的アセスメントをし、分析し計画の見直しをしています。			

13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	支援にかかわる職員での話し合いを行い、アセスメントを行っています。計画の際には、保護者の方からの聞き取り等の内容も踏まえて5領域に沿った支援の内容を示すようにしています。職員間で子ども達の日々の様子や変化を伝え合い、それに基づき作成しています。	
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	ケースファイルに保存しており、職員間で共有後も各自閲覧し、支援を行っています。	
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%		
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	ガイドラインに沿って支援項目を設定し、支援内容を計画に記載しています。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	月1回程度ミーティング時に話し合い、昨年の活動や先月の活動を重ならないように工夫しています。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	年間保育計画を立て、主にそれに沿った保育を展開しています。季節の遊びや行事なども取り入れ、普段の遊びとは違った経験や体験もできるように計画しています。デジタルリハビリやスヌーズレンルームでの活動なども取り入れています。また、プログラムの立案時、先月のプログラムを振り返り、同じ内容や遊びにならないように工夫しています。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	午前中は、集団保育を行い、子ども達の社会性や集団適応の力をはぐくむ取り組みを行っています。午後は、個人の生活ベースに合わせて個別保育を行っています。その時の子ども達の様子を観察し、活動内容を修正するなど工夫しています。また、当施設にはHPS（Hospital Play Specialist）が在籍します。主に医療的ケアに関すること、摂食課題等、それぞれの個々の課題に対しては子ども達が肯定的に物事を受け止められるよう、HPSが個別のプレイプログラムを立案し、個別活動にも取り組んでいます。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	当日利用される子ども達の介助方法や、使用する物品など伝え合って確認し、支援にあたっています。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	毎日夕礼後、子ども達の様子を伝えあい、気づいた点や、改善したほうがよい点など職員間で共有しています。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	日々、子ども達の様子をケース記録に入力して記録を残しています。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	半年間に一度、職員間での情報共有をもとに計画をみなおし、更新している。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	児童発達支援管理責任者が主に会議に参加し、子どもの様子を伝えています。	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	必要に応じて、保健所、医療機関、児童発達支援センターとの情報共有を行っています。保護者を通じて、必要に応じて、医療情報提供書を依頼し、子ども達のケアに役立てるようしており、医療機関とも連絡がとれる体制をとっています。	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	就園の際には必要に応じて移行支援を行っています。移行先からの訪問や電話対応、また、移行先への訪問や電話での連携を行い、子ども達が地域で適切な支援を受けられるように努めています。	

関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	75%	25%	就学の際にも必要に応じて移行支援を行っています。移行先からの訪問や電話対応、また、移行先への訪問や電話での連携を行い、子ども達が地域で適切な支援を受けられるように努めています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	100%	0%	市立児童発達支援センターと連携しており、保護者の許可を得て、情報共有をさせていただいております。また、センターの担当職員が当施設に来所、または当施設職員が訪問をし、生活場面や活動場面での姿勢設定や解除方法等について指導や助言を受けております。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	75%	25%	昨年の夏より1階カムカムスペース（地域交流スペース）に「おさんぼ絵本」を設置しました。地域の子ども達が自由に絵本を見たり、借りたりできるスペースを設け、開かれた施設を目指しています。また、折りにふれ、地域のお祭り行事や近隣小学校等でのふれあい祭り等にも参加しています。戸外遊びで、地域の子ども達とも挨拶をして交流をおこなうことがあります。		
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	連絡帳や電話でのやり取りを密に行い、時には送迎時にも日々の子どもの様子について共有できるように努めています。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0%	75%	困りごとを聞いたり相談にのる際は親身に寄り添い助言を行うようにしています。	現在、ペアレントトレーニング等のプログラムは実施していませんが、保護者からの依頼があった場合には応じるようにしていきます。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	作成時、保護者との面談を行い、子ども達の家での様子と、利用時の様子を共有し、意向を確認して作成をしています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	保護者からの相談等については、いつでも応じることができるようにしています。連絡帳でのやりとりや電話連絡、面談等を通じて、日々の子どもの様子を交えて、助言や支援を行っています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	25%	75%	保護者からの相談などあれば対応させていただいている時があります。	現在保護者会等は実施していませんが、保護者からの依頼があった場合には応じるようにしていきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	ご質問やご要望があった場合は即座に返答をし、対応しています。	
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	半期に一度、子ども達の活動の様子を撮った写真をアルバムにし、お渡ししています。また、毎月のお知らせに活動報告や予定を記載し、活動の様子がわかるように努めています。また、インスタグラムでも日々の保育の様子や情報を発信しています。		

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	SNSの掲載などには保護者の方の同意を得るようにしています。また、カギのかかるロッカーに個人情報やケースファイルを保管しています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	昨年の夏より1階カムカムスペース（地域交流スペース）に「おさんぼ絵本」を設置しました。地域子ども達が自由に絵本を見たり、借りたりできるスペースを設けています。また、納涼祭や上映会など、地域の方がお越しいただけるイベントを行っています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	各マニュアルは策定されています。事務所にて、いつでも閲覧できるようにしています。避難訓練や緊急の救助方法（第一次救命）などの講習会も開催しています。防災訓練では、消防署の方立ち合いのもと訓練を行っています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	75%	25%	災害時の対応など、対応を職員間に周知するようにしています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	利用開始時に保護者より情報を提供いただいています。また、半年に一度、お薬の情報の更新を保護者に依頼し、最新の情報を保ようにしています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	毎月、食物アレルギー表で確認したうえで提供しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	75%	25%		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	75%	0%	緊急時の連絡など、連絡が必要な事項などはご家族と共有させていただいております。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	月に1回、ヒヤリハットの内容を共有しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会に児童発達支援管理責任者が出席、職員は大阪府社協実施のオンデマンド研修を受講するなど適切な支援の実施にむけて対応しています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%	個別支援計画の面談時に、「身体拘束について」の説明を行い、了解を得るようにしています。		